



<ラムサール通信>

2019年9月13日発行 第197号

●第106回<ワイズユース>ワークショップ(11月2日)開催のお知らせ●

ラムサールセンター(RCJ)の第106回<ワイズユース>ワークショップを、下記のとおり開催します。今回は古くからの会員の角野康郎さん、金子与止男さんを講師に、それぞれの専門分野から話していただきます。どなたでも参加できますので、多くの方の参加をお待ちしています。終了後は講師を囲んでの交流会を予定しています。

【日時】 2019年11月2日(土) 13時~16時30分

【会場】 地球環境パートナーシッププラザ(GEOC) セミナースペース

東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学ビル1F 電話:03-3407-8107

(地下鉄表参道駅から徒歩5分、JR・地下鉄渋谷駅から徒歩10分)

アクセス:<http://www.geoc.jp/access/#geoc>

【プログラム】

- ・「自然資源の保全と持続可能な利用」 金子与止男さん(元岩手県立大学教授)
- ・「ラムサール条約は日本の水草を守ったか」 角野康郎さん(神戸大学名誉教授・水草研究会前会長)

【参加費】 会員・学生1000円、一般2000円

●[KODOMO ラムサール in 葛西海浜公園](2020年2月22~24日・東京)●
の参加者募集がはじまります

世界で2357番目、東京都で初の「国際的に重要な湿地」として2018年10月にラムサール条約に登録された葛西海浜公園(東京都・江戸川区)で、来年2月22~24日「KODOMO ラムサール in 葛西海浜公園」が開催されます。全国のラムサール条約登録湿地で活動している子どもたちを葛西海浜公園に招き、東京で活動している子どもたちと交流します。主催は東京都港湾局。江戸川区はじめ地元の団体、ラムサールセンター(RCJ)、ユースラムサールジャパン(YRJ)などが協力します(運営事務局:日本国際湿地保全連合(WIJ))。

この活動に、関東をはじめ、全国のラムサール条約登録湿地からの子どもたちの参加募集が開始されます。KODOMO ラムサールが首都・東京で開催されるのはこれがはじめて。熱意ある子どもたちの参加が期待されます。応募締め切りは10月15日(月)必着。詳しい募集案内は、東京都港湾局のホームページ(報道発表)をご覧ください。<https://www.kouwan.metro.tokyo.lg.jp/>

..... 新任役員のご挨拶

●岩崎慎平さん

昨年からは長年に就任した岩崎です。RCJが代理人を務めたインド環境協会の2004年度地球環境基金助成金事業に学生ボランティアで参加して以来、はや15年になります。今では研究とRCJ活動を両輪としたライフワークがすっかり定着しました。RCJの強みは会員の多様な専門性と人的ネットワークだと考えています。魅力的な会員の皆様と一緒に日本およびアジアの湿地ワイズユース促進に資する取組を進め、「湿地CEPAのプロ集団」として活躍できるよう努めてまいりますので、今後もお力添えのほどよろしくお願いいたします。

●ラムサール条約第 57 回常設委員会に参加しました

6 月 25 日から 28 日まで、スイス・ジュネーブ近郊にあるグランでラムサール条約第 57 回常設委員会 (SC57) が行われ、RCJ からは佐藤琢磨さんと田辺篤志が参加しました。常設委員会では条約締約国の政府代表が COP13 の振り返りや COP14 に向けた議題、事務局の方針など合計 30 項目について話し合いが行われ、中でも湿地都市認証や地域戦略について活発な議論が行われました。会議終盤にはラムサール条約誕生 50 周年の節目の 2021 年、COP14 が中国武漢で開催されることが発表されました。(田辺篤志)

●バングラデシュ・テクナフ報告

RCJ では 2019 年からの 2 年間、トヨタ環境活動助成プログラムの助成で「バングラデシュ国テクナフ半島の住民によるベンガル湾岸資源保全と SDGs14 の達成」プロジェクトを実施しており、8 月 6 日から 11 日までバングラデシュでのプロジェクト実施地に行ってきました。RCJ からは林聡彦さん、田辺篤志さん、小山温大さんと私、小山文大が行き、現地カウンターパート、バングラデシュポーシュのアサドさんも同行しました。

今回はプロジェクトの進捗状況確認や現地視察のほか、BCG (バイオダイバシティ保全グループ) の中心的な村である Barodail でミーティングをし、現地の人との意見交換をしてきました。また、ナレッジセンター (学校に行けない子どもたちの学習小屋) への訪問や現地での漁の様子の見学など、現地の人たちの生活の様子も視察することができました。(小山文大)



植林地で BCG メンバーとの集合写真



現地の漁 (水揚げ) の様子

●尾崎友紀さんがスコットランドから帰国しました

スコットランドのアバディーン大学に留学していた尾崎友紀さん (会員/ボランティアスタッフ) が、同大学院修士課程を修了し、8 月末に帰国しました。現地での滞在について紹介してくれました。

スコットランド・アバディーン大学での 1 年間の修士課程を終え、無事に帰国しました。私は、アバディーン大学の生物科学部環境科学科 (Environmental Science) を専攻し、土壌や環境汚染物質、流域管理、環境分析、GIS、統計の講義に加えレポート漬けの毎日でしたが、野外やラボの実習も多かったので、楽しく学ぶことができました。卒業研究は、ヨコエビ (Gammarus pulex) の走光性の実験をしました。

この留学で印象的だったのは、スコットランドの土地利用 (泥炭地の炭素貯蔵利用/林業/狩猟場など) と、自然保護区における、利用者が最大限に自然を楽しめるデザイン (景観を損なわないけど、有用でシンプルな案内板など) でした。スコットランドは、曇りや小雨が多く、冬は日照時間が短いなど、気候条件がやや厳しいとされているかもしれませんが、ただ、そうゆう土地だからこそ生まれた自然もあるし、文化もあって、限られた資源を最大限に生かそうとする、姿勢が私は好きでした。

この時期に、スコットランドという土地で 1 年間を過ごせたことを、本当に幸せだったと思っています。しばらくは東京にいますので、また皆さまにお会いできるのを楽しみにしています。今後ともよろしく願います。(尾崎友紀)



1495 年に建てられた校舎



泥炭地での野外実習のようす